

『主体的に取り組む、考える楽しさや上達する喜びを 味わうことのできる児童の育成』 ～健康な体をつくるために～



あいさつ

町田市教育委員会教育長 坂本 修一

町田市立小山中央小学校は、2019・2020年度の2年間にわたり、町田市教育委員会研究推進校として熱心に研究を進めてこられました。この度、その成果をリーフレットとしてまとめられ、発表されますことを心よりお慶び申し上げます。

本校の研究は、一人一人がめあてをもち、考える楽しさや体を動かす楽しさを味わう中で「分かった」「できた」「伸びた」を実感し、学んだことを自分の生活に生かそうとする児童の姿を目指して授業実践を積み重ね、子どもたちに豊かな心と体の育成を図ってこられました。

本校の取組は、改訂学習指導要領に示されている「課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ことにつながる取組です。本校の取組が町田市立学校の授業改善、さらには児童の体力及び健康への意識を向上させることにつながっていくことを期待しております。

結びにあたり、これまで熱意をもって本研究を進めてこられました、岡部ひとみ校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、本校の研究にご指導くださいました講師の先生方、温かく支えてくださいました保護者及び地域の皆様に厚くお礼を申し上げ、あいさつといたします。

はじめに

校長 岡部 ひとみ

今年度からの学習指導要領の全面実施を踏まえ、知識の理解を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を掲げています。また、重点教育目標「考える子」に焦点をあて思考力を育てる指導法を追究してきました。

ところが、コロナ禍の状況下、臨時休業を余儀なくされました。教育活動再開後、ソーシャルディスタンスをとりながらの授業実践は試行錯誤でしたが、「シェアリング」や「学習カード」を中心に主体的・対話的な学習の工夫を模索してきました。

今後は、体育科から他教科への広がりを目指しています。

この2年間、講話や研究授業で御指導を賜った講師の先生方、町田市教育委員会の皆様方に、心より感謝申し上げます。

町田市立小山中央小学校

〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘3丁目7番地1

電話 042(798)0670 FAX 042(798)0672

教育目標 ○考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子

児童の実態

- ・ 体育の学習に対しての意欲はあるが、外遊びに対しては消極的な児童が存在する。
- ・ 体力が各学年低い傾向があり、投力や敏捷性が特に低い。
- ・ 体の使い方が上手でない児童が多く、運動経験が乏しい領域には消極的である。

研究主題

主体的に取り組み、考える楽しさや上達する喜びを味わうことのできる児童の育成
～健康な体をつくるために～

目指す児童

- ・ めあてをもち、主体的に運動に取り組む児童 (学びに向かう力、人間性等)
- ・ 知識や技能を身に付け、高まりを実感できる児童 (知識及び技能)
- ・ よい生活のために、工夫を考える児童 (思考力・判断力・表現力等)

研究仮説

児童一人一人がめあてをもち、考える楽しさを味わう中で「分かった!」「できた!」「伸びた!」が実感できるようになれば、学んだことを生活に生かすようになるだろう。

主体的に

取り組むための手立て

- ・ 誰でも参加しやすい
UD化した授業設計
- ・ 学習の見通しがもてる
学習カードの活用
- ・ 主運動につながる動きを
取り入れた準備運動や
感覚づくりの運動

考える楽しさや上達する喜び

を味わうための手立て

- ・ めあてや振り返りにより
自己を見つめられる
学習カードの活用
- ・ 課題を解決するための
シェアリング
- ・ 効果的な場や教材の設定

運動・健康に関する

環境づくり

- ・ 校庭・校内環境の整備
- ・ 体育館、雑木林の開放
- ・ 体力向上週間の充実
- ・ いきいきカードの実施、検証

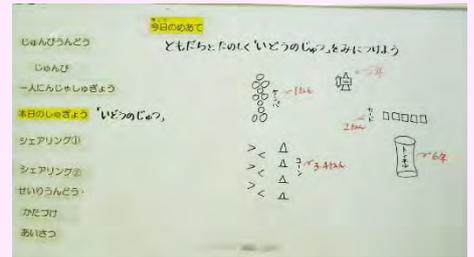
運動・健康について学んだことを生活に生かせるようになる

研究の内容1 主体的に取り組むための授業づくり

見通しをもたせる導入

児童がその時間に何を、どのように学ぶのか、見通しをもたせるために、本時のめあてや流れを提示している。

“全員が達成する”めあてがあり、児童一人一人がそれぞれ自分のめあてをもてるようにする。また、主運動につながる準備運動や感覚づくりの運動を行い、より子どもたちの意欲の向上につなげる。



あおば学級 体づくりの運動遊び
『めがせ！あおば忍者！』より



流れを確認した後に、「どんなことをがんばりたい？」と、めあてを立てた。
サポートルーム 個別学習
『自立活動』より

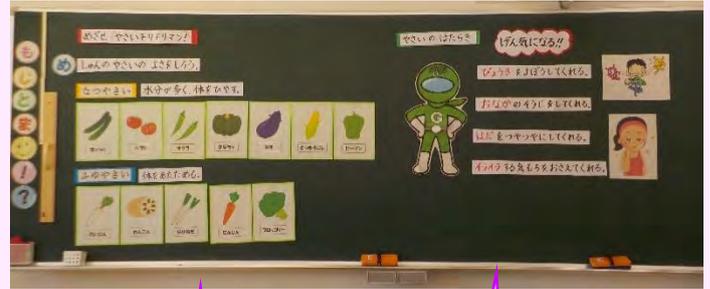
校庭でも、プラスチック段ボールを使用し、めあて、流れ、ポイント、場の設定などを掲示した。
4年生 陸上運動 『かけっこ・リレー』より



構造的な板書

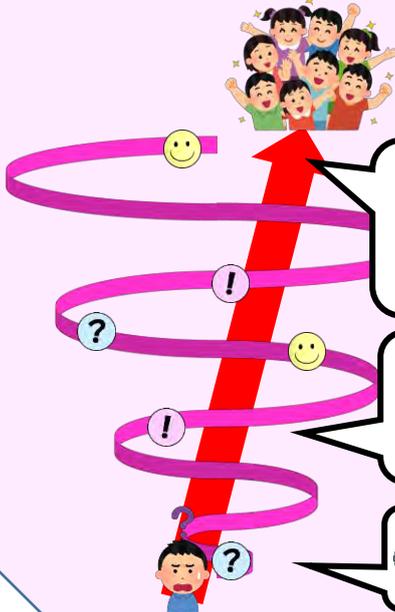
流れやめあてとともに、児童から出た意見を考えさせたり交流したりするためのポイントなどを提示する。児童に必要な情報を可視化する。

2年生 食育『めがせ！やさいモリモリマン』より



学びのサイクル

一単位時間や単元を通して、疑問→理解→活用→新たな疑問…というサイクルで児童の学びが広がり、高まるように計画する。考えることを通して、運動が楽しくなることをねらっている。



友達が「こうじゃない?」と言ってくれてうれしかった。いいことを教えてくれて、自分もかわろうと思った。

風船を低く飛ばして運ぼうとしたら、時間が短縮できて、速く運べるよ!

風船を速く運ぶのが難しいなあ。



5年生 体づくり運動

『体ほぐしの運動・体の動きを高める運動』

より

研究の内容2 シェアリング

個人の考えを深めるためには、相手の考えを受け入れてから思考することが大切である。そのためには、個々の考えを効率よく全体と共有する手法が必要になる。そして、友達からの言葉は、自分の伸びや課題への気付きとする大きな手立てとなる。場面に応じて適切なシェアリング（共有）方法を取り入れ、主体的な学びとなる環境を構築し、学習につながりをもたせた。

新型コロナウイルス感染症予防に配慮したシェアリング方法として、以下の4種類を積極的に活用した。

フラフーフ方式

輪の中に入って会話をすることで、一定の距離を保ちながら、今まで通り考えを伝え合うことができる。子どもたちも位置が見て分かるため、円滑に授業進めることができた。また、どの学年でも応用することができる。



1年生 体づくりの運動遊び
『わくわくたんけん島で遊ぼう』より

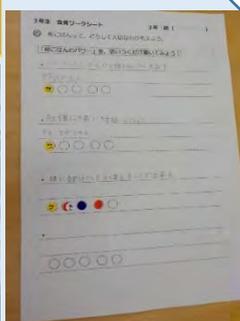
風車(かざぐるま)方式

教室という限られた空間の中で対面することを避けながら、同じメンバーで話し合いをすることができる。机があることで間隔を保つことができる。



6年生 保健
『病気の予防』より

シール(回転寿司)方式



友達の机を順番に回りながら、シールを貼って思ったことを伝達していく。目的に応じて色分けしたシールを活用することで、視覚的にも分かりやすくなる。対面して自分の意見を発表することを苦手とする児童も、積極的に参加することができた。

3年生 食育
『朝ごはんのパワーを知ろう!』より

ICT(Chromebook)方式

オンライン上で考えを共有したり、コメントを書き込んだりすることで、効果的に学習を進めた。ソーシャルディスタンスを保ちながら活動ができるというメリットもあり、教科問わず、今後も積極的に活用する場面を増やしていく。



研究の内容3 学習カードの充実

学習カードは、授業のポイントがまとめてあり、児童が学習活動の中で確認しながら運動をすることにより理解を深められるようにしている。『体育ノート』を作り、各単元の計画や、知識・技能、自分のめあて、そして、授業の振り返りを記録している。運動の場では忘れてしまいやすい気付きを？！😊の3つの視点で整理させることで、児童の「分かった！」「できた！」「伸びた！」の実感につなげる。また、教師が児童の課題を把握したり、つまづきや、実態に応じた柔軟な指導を行ったりするのに活用している。

学習カード

給食で出た野菜をチェックし、旬の野菜を確認した。



2年生 食育

『めざせ！やさいモリモリマン』より

あおば学級 体づくりの運動遊び

『めざせ！あおば忍者！』より



学びのサイクルのマークを活用した振り返り

かけっこ・リレーをふり返って

①前をむいたままスタートできるようになりたいです。②コーナーで体を曲げられた。😊も、とスタートを早くできるようにがんばりたいと思います。スタートを早くするには足の踏みが大切だ

4年生 陸上運動『かけっこ・リレー』より

一人一人の学びが深まり、気付きが広がる！

シェアリングや学習カードを通して考えを伝え合う中で、共に成長を認め合いながら、上達する喜びや、考える楽しさを味わうことができた。

学んだことを生かし、次にできるようにになりたいことを考えて挑戦するなど、主体的に取り組む姿が見られた。



どの学習でも学びを生かし、同じ3つの視点で学習の振り返りをすることで、他教科でも、体育科での学び方を生かしたシェアリングや振り返りが広がっている。

外国語科の授業より



研究の内容4 日常につなげる

環境の整備

～運動したいと思ったときに、いつでも取り組める環境～



ラダー

ケンケンパ



垂直ジャンプ

走る一步はどれくらい？



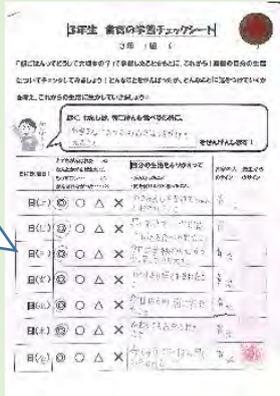
三色遊具

家庭との連携

～家庭でも、毎日体を動かす宿題『音・運（音読・運動）カード』～

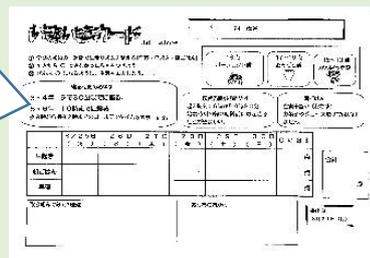
～早寝・早起き・朝ご飯の大切さ・野菜を摂取するよさを学校で学び、家庭で実践～

体に大切な朝ごはんを食べるために、早起きして時間を作ると！



だいぶ、体が柔らかくなったな。お風呂上がりの柔軟は最高！

早起きすると、朝ご飯は美味しいし、学校でも集中できるんだよな。



野菜ビンゴのおかげで、なすを食べられるようになった。

児童の主体的な取り組み

～全校児童が運動好きになることを目指して、すすんで考え、実践する体育委員会～



みんなが楽しそうに取り組んでくれている。やってよかったな。

休み時間に遊具を使って鍛えたり、授業で取り組んでいるリレーや鉄棒等の練習をしたりする児童も増えた。



まずは、逆上がりの練習をしよう。踏み越し下りの練習もしたいな。

体育朝会の実施

月に1度の体育朝会で、ボールの投げ方や用具の使い方などを学び、日常の運動に生かせるようにした。(テレビ放送)



成果と課題



- 毎時間のめあてを精選したり、価値付け方法を工夫したり、児童の実態に合った学習サイクルを考えたことが、児童の学習への意欲の高まりにつながった。
- 学習活動の中に、シェアリングやグループ活動を意図的に取り入れたことにより、友達との関わりが増えた。その結果、児童の動きや考えの深まりにつながった。
- 単元や1単位時間におけるシェアリングの設定の仕方（タイミング、時間、方法など）によって、効果が変わるため、児童の思考をより深めるため、さらに研究していく必要がある。
- 学んだことを今後の生活に生かしていくためには、保護者の協力が不可欠であり、今後も家庭への啓発をしていく必要がある。

あ と が き

副校長 藤田 勝也

本年度、私たちは「主体的に取り組み、考える楽しさや上達する喜びを味わうことのできる児童の育成 ～健康な体をつくるために～」という研究主題で体育を中心として保健や食育の授業改善に取り組んできました。

『体を鍛えること』と『健康な体をつくること』は違う

「どうすれば自分の体を健康な体にすることができるか、考えて行動する必要がある」

「では、その考えて行動する力、すなわち思考力を育てるにはどうすればよいのか」

その答えを求めて研究に邁進した一年間でした。

2019年度から2年間、町田市体力向上研究推進校の指定を受け、国士舘大学准教授の佐々木浩先生からは年間を通して御指導をいただき、東京学芸大学准教授の増田謙太郎先生からは特別支援教育の視点から御指導をいただくことができました。町田市教育委員会指導課指導主事の赤司裕司先生、高木孝輔先生、末原久志先生、飯島明理先生からは、きめ細かい御指導を何度もいただきました。私たちの研究が深まり、本日、研究発表会という一つの節目を迎え、皆様に御披露することができるのは、このように支えていただいた方々のお力があったからこそです。深く感謝申し上げます。

さて、本校の校内研究はここで一区切りとなりますが、健康な体をつくるための取り組みは生涯にわたって行われるものです。小山中央小学校のすべての子どもたちが明るく健康な人生を送れるよう、教職員一同、これからも一致団結して授業改善と環境づくりに取り組んでいきます。

◆研究に携わった教職員《2020年度》 ◎研究推進委員長 ○研究推進委員

校長：岡部ひとみ 副校長：藤田勝也 主幹：

1-1		1-2		1-3		1-4	
2-1		2-2		2-3		2-4	
3-1		3-2		3-3			
4-1		4-2		4-3		4-4	
5-1		5-2		5-3		5-4	
6-1		6-2		6-3		6-4	
少人数		音楽		図工		家庭科	
英語		養護		あおば			
サポートルーム							
特別支援専門員		特別支援教育支援員		特別支援教育心理士		副校長補佐	
事務				用務			
栄養士				図書指導員			
調理員							
講師							
スクールカウンセラー	ボランティアコーディネーター						
学校支援ボランティア				スクールサポートスタッフ			
MEPS		ALT		学校管理員			

◆研究に携わった教員《2019年度》 上記教員を除く